

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所理念として「地域に溶け込んだホーム作り」を掲げている。	○  生まれ育った地域の中で、その方らしい生活を送っていけるよう支援していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・週一回朝礼があり、その時に職員全員で理念を唱和し確認している。基本理念に基づいた支援をしていけるよう努めている。	○  基本理念を忘れずに、日々取組んでいきたいと思う。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・ホーム玄関に理念を明記した運営規定が掲示されている。事務所内にも理念が掲げている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・近所に住宅が少なく、近所の方が気軽に立ち寄ることができないので残念であるが、以前入居されていた近所にすむ方が自分の作った野菜などを持ってきてくれたりし、今後もそのような交流を図っていきたいと思う。	○  隣接した畑の持ち主の方が野菜をもってきてくれたり、地域の方との交流が少しずつ出来てきているので、今後も輪を広げていけるようにしたいと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容を職員で話し合い、改善すべき部分は改善していけるよう努力している。	○	まだまだ見直す点はあると思うので、今後も評価内容を検討し努力していきたいと思う。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に介護職員も参加しているので、積極的に意見を出し合い、皆で内容を検討して日々のケアに生かせるようにしている。	○	これからも話し合いを通してケアの質のアップにつながるようにしていきたいと思う。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者や地域包括支援センターなど行政との連携を密に図り、サービスしてけるようにしている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度があることは知っているが、具体的な内容まではわからないことが多い。	○	制度についての勉強会や研修に参加して、職員全員が制度について知識を持ち活用できるようにしていきたいと思う。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などを通し虐待防止について学び、職員全員で虐待が起きないように努めている。	○	職員全体が注意し、虐待防止に努めていきたいと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時などは利用者、家族ともども面会し、説明を行うようにしている。また、その際も不安や疑問点などがないか尋ね、納得の上、契約を結んでもらうよう努力している。	○  入居後も不安なく生活ができるよう、本人・家族の疑問点を訊ね、納得し安心して生活を送れるよう支援していきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見などを述べやすい雰囲気づくりを行っている。	○  もっと入居者の方が意見を話せるような機会をつくっていききたいと思う。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の入居費支払い時に金銭管理状況を家族に確認してもらい、面会時は職員から入居者の方々の暮らしぶりや健康状態などが報告されている。	○  県外におられ面会の機会の少ない家族もおられるので、定期的にホーム通信などを作成し、郵送するなど入居者様の様子を伝えられるようにしていきたいと思っている。職員の移動も報告するか、検討していきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見などを述べやすい雰囲気作りに努めるとともに、各家族との信頼関係を強化し、苦情・相談窓口を設け、内容を職員全体で話し合い、業務に行かせるよう努めている。	○  家族の意見や要望を取り入れ、職員が話し合い日々のケアサービスに生かしていきたいと思いません。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議にはユニットの職員代表が各職員の意見等をまとめ出席しており、職員の意見や提案も述べられている。	○  定期的なミーティングなどの他にも意見や提案を述べられるような機会を設け、各職員
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	対応が必要な場合は随時職員同士が話し合い、柔軟に対応できるよう勤務の調整を行っている。	○  勤務全体に余裕をもって対応できるよう、職員全体で業務内容の見直しなどを行い効率化を図っていく必要があると思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職もあり、馴染みの職員による継続的な支援への取り組みは困難な状況である。	○	職員の異動や離職時は利用者の詳細を引き継ぎ、利用者に対しての悪影響を考慮し一貫性のある支援が行われるよう配慮していきたいと思う。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修への参加の機会を設け、研修参加を促し各職員の知識と技術の向上を図れるよう努めている。	○	今後も研修や勉強会などへの参加の機会を設け、研修報告などを作成し、職員全員に周知し知識と技術の向上に努めていきたいと思う。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームでのイベントなどへの同業者の参加を促し交流の機会を設けたり、同業者間の勉強会への参加などを行い連携・交流の機会を設けている。	○	今後もイベントや勉強会を通じて、連携・交流の強化に努めていきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	同業者間の介護職員同士の勉強会への参加や、職員の親睦会などを実施している。	○	施設内では職員が休息をとれるスペースや時間の確保が難しいので、今後この点に向けて検討していきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各研修や勉強会に参加し知識・技術の向上の図るとともに資格取得などにも積極的に挑戦できる環境作りに取り組んでいる。	○	今後も知識・技術の向上を図り資格取得などにも挑戦できる環境作りに努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護支援相談員が、必要時は利用者様の自宅を訪問し、本人・家族と面談し、相談等に乗れるようにしている。	○  今後も本人・家族との対話を行い信頼関係の強化に努める。
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が相談を受けた際に、利用者様・家族様の相談内容や状況を的確に把握し、他のサービス利用も含め必要時は各事業所に連絡・相談するなどの対応を行っている。	○  他にも様々なサービスの選択肢があることなどを家族に説明し、相談に乗れるよう他サービスの熟知に努めるようにしていきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居説明の際に、馴染みの物品の持ち込みができることなどを説明し、また家族や本人に趣味や好みなどを尋ね、話題を提供したりし新しい環境に早くなじめるよう努力している。	○  今後も入居者の馴染みのものや、趣味・好み等を活用し早く新しい環境に馴染んでもらうよう努める。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「笑顔のある暮らし」を理念に、各個人の個性・能力を大切に、ともに支え合い、励まし合いながら生活できる環境作りに取り組んでいる。	○  今後も「笑顔のある暮らし」を念頭にし、利用者・職員共に支え合い、励ましあいながら生活できる環境作りに努めます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	長く一緒に生活してきた家族の思いを大事にし、家族と共に本人の生活を支援しているという思いが共有できるように利用者の様子を細めに伝え一緒に支えている。	○	各家族に利用者の状況を細かく伝え一緒になって支えていけるように努める。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来やすい雰囲気作りに励んでいる。	○	本人・家族の立場を理解し、信頼関係を作りながら、今後も良好な関係を築いていけるよう支援していきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店や店の利用などで関係性が保てるよう支援し、電話や訪問などで交流を継続できるよう努めている。	○	利用者が馴染みにしている店や人などを把握し、関係性が保てるように交流を継続していきたい。
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	部屋にこもりがちになり、孤立しないよう職員全員が利用者同士の関係性を把握し、食事などもみんなできちんとできるように努めている。	○	行事やレクリエーションなどを通して仲間意識を持ち、職員・利用者が共に支え合って生活が遅れるよう支援していきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の相談に応じるなど、サービス利用終了後も関係性を保ちつづけるよう努力している。	○	今後もサービス利用終了後の家族とも関係を継続できるように努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーションを通し、一人ひとりの思いや希望にそった生活が行えるよう努めている。また、積極的に家族との関わりを持つようにしている。	○	今後も本人・家族との信頼関係作りに努め、本人の思いや意向に沿えるよう努力していきたいと思う。また、常に本人本位のケアを意識していきたいと思う。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族から情報を収集し、ライフスタイルや生活史の把握に努めている。	○	本人の人生を享受し、本人のライフスタイルに沿った生活が営めるように支援していきたいと思う。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式シートなどを使い、ケア職員全員が入居者個人の現状の把握に努められるようにしている。	○	今後も職員全員が入居者個人の現状の把握に努める。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・職員の意向やアイデアを取り入れ、個別的・具体的な内容の支援が行えるよう努めている。	○	日常生活を通し、ヒントとなるような事柄やアイデアがあれば家族・本人・職員の意向を取り入れ介護計画に活かしていきたいと思う。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態・家族の希望などの変化がない場合はそのまま継続の状況にある。	○	課題の分析や、再アセスメントをとるなど見直しを進めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は全職員が共有できるようになっている。	○	細やかな気づきや工夫などが盛り込まれておらず、介護計画への反映や実践結果の評価なども盛り込めるものとしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望やニーズに応じられるよう、可能な限り支援を行っているが、まだまだ不十分な点があると思われる。	○	施設の機能を生かし、自主サービスの開発なども検討し要望似応じられるようにしていきたいと思う。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議などを通し、民生委員の協力は図られているが、地域のボランティアなどとの協力は図られていない。	○	さまざまな地域資源との協働を図れるよう、積極的に取り組みたい。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターなどとの連携を図り、他のサービスの利用を図れるよう支援している。	○	地域包括支援センターを通じ、様々なサービス利用ができるよう事業所間との連携なども図ってきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、権利擁護制度や成年後見制度の利用が必要な方の入所がない。	○	必要時は地域包括支援センターや役場・役所などとも連携を図り、支援に努めていけるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況等を把握し、利用者・家族が希望する医療機関の受診を行えるように努めている。いつでも医療機関に相談することができる。	○	今後も医療機関との連携を図り、利用者が適切な医療を受けられるよう支援する。
41	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に主治医が往診しており、職員の相談を受けたり、指示や助言などをおこなっている。	○	今後も主治医による指示や助言を継続していきたい。
42	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関と連携を図り、24時間いつでも相談できるようになっている。		今後も協力医療機関と連携を図り、いつでも相談できるように努めていく。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と情報交換し、家族も含め早期退院できるよう努めている。	○	医療機関との連携会議を定期的に行っており、今後も入院・退院のみでなく、常日頃から医療相談ができる体制を整えていきたい。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には重篤化した場合の対応として医療機関への入院等の説明はされているが、明確な段階・方針等は説明が行われていない。	○	日頃から重篤化した場合や終末期の在り方などについて本人・家族の意向を聞き、適切な対応がとれるようかかりつけ医などとも相談し、方針を固めていきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化・終末期の入居者の対応を事業所内で話し合い、かかりつけ医に相談している。	○	事業所のハード面・ソフト面を含め「できること・できないこと」を検討し、担当医とも連携をとりながら、重度化した場合などの対応を行う必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境変化による認知症の問題行動などの出現などを職員は理解しており、家族や関係者と話し合い、ダメージを最低限に抑えられるよう努力している。	○	住み替えによる混乱などが見られる入居者もおられるので、今後もダメージを抑えられるよう支援を継続していきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心やプライバシーに配慮し、言葉かけや対応を行うよう努めている。個人情報保護法にもとづき外部に情報がもれないよう記録は取り扱っている。	○	慣れ合いによる言葉遣いや対応もたまにみられるため、各職員間での注意などで喚起をうながしていきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の状態に合わせた説明の方法を心がけるなどし、自己決定が行えるよう支援している。	○	意志表示が難しい入居者の方もおられるが、なるべく本人の意思や希望に添えるよう努力していきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の訴えを優先するよう努めている。入居者の言動をせかさないう努め、本人のペースに合わせた生活ができるよう支援している。	○	入浴順番など施設・職員の都合で決めてしまっていることもあるので今後検討していきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの際は本人の希望を尋ね、好みの装いができるようにしている。理髪店なども好みの場所へいけるよう送迎したりしている。	○	今後も本人の好みの装いが出来るようにし、理髪店など好みの場所へ送迎する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が本人の好みを把握するように努め、献立づくりに反映されるようにしている。また、パン食など本人のニーズに柔軟に対応できるようにしている。可能な限り、準備や片付けなども一緒に行えるよう努めている。	○	食事介助の必要な入居者もおられ、ともに食事をとったりすることが難しい状況である。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握するように努めており、好みの食物や飲み物を提供できるように努めている。	○	疾病によりかかりつけ医から禁煙を支持されている入居者もおり、個人々の疾患を踏まえながら、嗜好品を楽しめるように努めていきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	羞恥心やプライバシーに配慮し、排泄できるように努めている。定期的な誘導など行い、失敗を防ぐように努めている。	○	自己報告による誘導が多く、各個人の排せつパターンの把握までには至っていないため、パターンをとらえ、適切に誘導できるように努めていきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は施設で決めている。希望により、入浴日をずらせるように努めている。	○	個人の都合などにより入浴日が変更になったばあいでも、希望に沿うよう職員同士で業務調整をおこない、可能な限り対応している。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各個人の睡眠パターンの把握に努め、休息や安眠をはかれるようにしている。睡眠剤の服用は本人・家族・医療機関との相談によりおこなうようにしている。	○	日中の活動量を増やすなどの支援を行い、昼夜逆転などの障害を防ぎ、生活リズムを整えていけるよう支援していきたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に生活歴や希望を聞き入れ、その方のライフスタイルや能力に応じた役割や楽しみを見出せるよう支援している。	○	家族や本人との会話などから得た情報をもと、センター方式シートの記入やカンファレンス、ミーティングなどにより職員間での情報の共有を図り、各個人の生活支援を行えるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族とも相談し、お小遣いなどの金銭は施設で管理している。	○	個人からの希望があれば買い物の代行などを行っているが、個人での金銭管理は困難な方もおり、今後は職員付添いでの買い物などによりお金の使用などの感覚を失わずにいれる方法を検討したい。
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調などに合わせ、戸外への散歩や外出などの支援をおこなっている。	○	外出したがる入居者の方もおられ外出の機会が少ないが、天気や体調なども踏まえ、楽しみや気分転換となるように支援していきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	なかなか本人の希望の場所や、行ってみたい所などの把握に努められず、支援に結びつかない部分がある。	○	個人の希望に添えるよう家族とも相談し、外出の機会を設けられるように支援していきたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に出したり、かけたりできるように支援している。自室で話しができるようプライバシーにも配慮している。	○	ほとんどが電話での会話なので、今後は手紙を出したり、書いたりできる機会をつくりたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けていない。訪問時はお茶をだしたりし、ゆっくり過ごしていただけるように努めている。	○	今後も面会時間などは設けず、ゆっくり過ごしていただけるように努める。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないようにしている。また、やむをえず行う際は家族に説明を行い、同意を得るようにしている。	○	今後も身体拘束の内容を職員が理解し、身体拘束は行わないという姿勢で取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望や徘徊等の問題行動がある入居者もおられ、やむをえず玄関に施錠をしなければいけない状況もある。その際は家族に状況を説明し、同意を得るようにしている。	○	玄関横に事務室があるので、無断外出などの場合はすぐ職員が気づけるようにし、付き添うなどの対応をしていきたい。非常口などの職員の目の届きにくい場所をどうするか今後検討していきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を問わず適時訪室するなど入居者の状況を把握することに努めており、その際もプライバシーの配慮に努めている。	○	廊下奥のトイレ使用時などは状況が把握しづらいため、今後検討していきたい。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は保管場所を決めたり、管理ができるようにしている。裁縫道具やハサミなどの使用時は入居者の状況に合わせ、職員の付き添いで行っている。	○	注意物品は入居者の目の届かない場所に保管するようにしているが、鍵などはかけていないため今後検討していきたい。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者個人々の状況で想定される事故は未然に防ぐようミーティングなどの際に、職員同士で話し合い検討している。ヒヤリハット報告書を作成し、同一の事故が発生しないよう努めている。	○	今までの事故・ヒヤリハット報告書の内容を職員全員で検討し、再発防止に取り組んでいきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成しており、いつでも緊急連絡が取れる体制をつくっている。一部の職員が応急手当や救急救命の研修を受講している。	○	全職員の応急手当や救急救命の研修の機会を設け、知識と技術の獲得に努めたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	適切な避難・誘導が行えるように定期的に訓練を行っている。災害時などの物資準備は不十分である。	○	災害発生時の食料や必要物資の準備はされておらず、近隣住民などの協力体制もととのっていないので、今後検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりえるリスクはミーティングなどを通し職員間で話し合われているが、家族への説明は十分に行われていない。	○	リスク・状況変化、対応策などについて便宜に見直し、家族に説明するようにしていきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の持病やアレルギーについては入居の際に確認し、把握するようにしている。体調の変化や異変時は朝夕の申し送りなどで職員間で情報を共有し、対応するようにしている。また、異変なども記録し、主治医へ相談するようにしている。	○	入居者の体調や顔色などに留意し、異変を見落とさないように注意し、今後も徹底していくようにしたい。
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方されている薬の内容を把握するようにしており、副作用や用量にも注意するようにしている。飲み間違いなどのないよう各個人分で薬は管理している。	○	たまに飲み忘れなどが見られているので、服薬チェック表などを作成し、確実な服薬を心がけたい。状態変化は医師に報告しているが、家族への連絡はあまりなされていないので、こまめに連絡するように努めたい。
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘が及ぼす悪影響について理解しており、水分・食物繊維の摂取や腹部マッサージなどによる便秘の予防に努めている。	○	安易に下剤に頼らず、食材やメニューの工夫、軽い運動参加への取り組みなどで予防を図っていききたい。
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの必要性を職員は理解しているが、個別の対応を行うまでにはいたっておらず、声掛けのみとなっている。	○	一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、能力に応じた支援ができるように努めていきたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記入し、把握に努めている。献立や栄養状況などについて専門家からの助言などを得られる体制になっていない。	○	献立や栄養状況について、カロリーブックなどを参考にし、改善を図っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	対応マニュアルを作成し、職員がいつでも見れるように提示している。また、必要時の手指消毒を徹底するようにし、感染症を予防するようにしている。	○	ニュースなどの報道にも留意し、最新情報の収集に努め、感染症の予防を図るとともに入居者・家族へも感染症予防を周知していききたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンハイターなどを使用し、台所や布きんなどの調理用具の消毒につ留め、衛生管理を行っている。	○	二日おきの食品買い出しを行っているが、在庫管理表はなく、消費期限の確認や管理などを徹底していききたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設前はコンクリート敷きであるが、玄関前にプランター植えの植物を飾るなど、親しみやすく入りやすい玄関まわりを工夫している。		駐車場わきに雑草が生えているなどあるため、雑草の刈り込みや花壇の増設などを行い、季節感のある玄関まわりの工夫をしていききたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に面してガラス張りとなっており、採光の工夫がなされている。廊下や壁に手作りのフラワーアートなどを飾り、季節感を取り入れるようにしている。	○	今後も継続していききたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置くなどし、入居者同士が会話をしたり、ゆっくり過ごせるよう工夫している。	○	オープンスペースなので少人数や個人でくつろげる場所が少なく、今後改善していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅などで愛用していた品を持ってきてもらうよ うにしている。家族の写真などを飾り、さみしさ を感じない工夫などをしている。	○	本人・家族とも相談しながら、居心地のよい居 室・空間作りに努めていきたい。
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	施設内の換気を定期的に行い、温度管理に努めて いる。また、入居者の方々へ確認し、こまめに居 室内の温度調整を行うようにしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	安全に生活できるよう要所に手すりを設置してい る。転倒などにつながらないように、環境の設備を 行っている。	○	身体状況の変化に応じて環境改善を図っていくよ うにしたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	失見当などによる混乱を防ぐため、各居室前には ネームプレートを下げるなどの工夫をしている。	○	混乱を生じない環境作りを職員間で話し合い、環 境改善を努めていきたい。
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	玄関前、中庭で入居者・職員がプランター植えの 植物を育てている。	○	施設前や、横が雑草が生えている原野なので今後 は花壇や畑などへの活用を図り、入居者・職員共 同で作業が行えるような取り組みを図っていき たい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)